

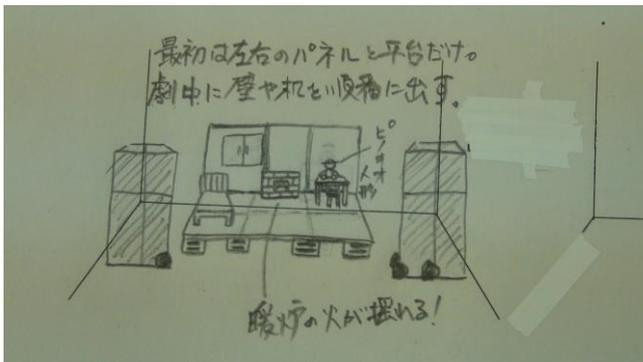
## いなべ総合学園高等学校

## Liar Liar ～はなの演劇部～

作：蔦野 若葉

## ◇概要◇

演劇部の大会まであと一週間。部長のマイの気持ちと部員の気持ちが食い違い、思うように練習が進まない。「このままじゃ上に行くのは難しいっていか、もっとリアルにかんがえていこうよ。」「え、上って?」「そっか、行くところは行くんだもんね。」「…え?」「え?」



## ◇メッセージカードより◇

・現実味溢れる劇でいろいろ考えさせられる劇でした。部長役の子がイライラしだした時から泣きそうになって、その子がブチギレしたときにはボロボロ泣いていました。こんなことがないように頑張りたいです。

・演劇部の生徒たちを描いた舞台という事で、すごく自分に当てはめてみる事が出来ました。舞台上で2つの舞台を演じるということでしたが、何の違和感もなくすんなり受け入れられました。演出の子が客席で見るという演出も珍しくて、とてもいいなと思いました。ピノキオに使うセットや花の伸びるシーンは、自然で、もうあのままピノキオを続けても不思議に感じないのではと思いました。

・日常の演劇部の練習風景を見事にリアルに自然体に表現されていて驚きました。主人公がうそつきのピノキオとかけてあってなるほどなと思い、心にくるものがありました。

## ◇楽屋インタビュー◇

Q1. タイトルにはどのような思いが込められていますか?

A. 深い意味はなく、面白くしようと思って、はなの女子高生とピノキオのはなをかけています。

Q2. 演出で、一番にこだわったところはどこですか?

A. 劇中で役者のセリフがないシーンでも、その人の感情を常に動きで表現しているところです。

Q3. 音響と照明で工夫したのはどこですか?

A. 音響は、時間の経過を伝えるためにフクロウの鳴き声などを使って表現しました。照明でも、時間の経過が伝わるように、日光は一定方向なので上手のシーリングのみをつけるなどの工夫をしました。

Q4. 劇と劇中劇でそれぞれこだわったところはどこですか?

A. 部長としてのまいと、ピノキオを演じているときのまいとの違いを作りつつ、似ているところもあるというのを表現しました。



【速報担当】杉本 恵太、山澤 郁仁 (福農)

※ いなべ総合学園高等学校のみなさん お疲れ様でした!!